

## 自主的研究会「大規模稲作経営者懇談会」の開設について

2010年2月10日

代表 有限会社 神林カントリー農園

忠 聡

日本農業の象徴である水田農業経営特に稲作は、収益構造で大きな課題を抱えています。加えて、小規模高齢農業者が就農者の65%に達した今、農地の維持管理に掛かる課題も深刻化しています。

一方、それら維持困難となった農地の受け皿として大規模な稲作経営も出現してきておりますが、米の生産調整にもかかわらず米価は下降し続け、規模拡大によるスケールメリットは薄れています。

その減収を補完する観点から販売や加工といった多角化を進めていますが、経営内部の人材不足もあって厳しい状況が続いています。

私たちはそのようなかで、2008年10月から会員有志により研究会を立ち上げ、これまで農林水産省はじめ学識者を交えた議論を経て昨年10月に「中間とりまとめ」を行い、協会の土地利用型部会に提出したところです。

各種の調査結果や議論から、大規模経営にあっても交付金を除けば大方は営業利益マイナスという実情が報告されました。

このたびは、農業政策の転換期にあたり改めて以下のような目的で懇談会の設置についてご案内した次第です。

皆様とともに、後世に引き継げる安定した経営を目指し活動を行っていききたいと存じます。

### ■ 大規模稲作経営の定義と活動目的

#### \* 定義

- ・ 家族労働者を除く常時雇用者が1人以上いる。
- ・ 売上の過半以上を、自ら生産した農産物および加工品であること。

#### \* 目的

- ・ 大規模稲作経営安定化のための経営管理手法の研究
- ・ 農業者基点の、農業農村の6次産業化に向けて
- ・ 政策や制度への具体的提言について
- ・ その他（中間とりまとめで抽出した検討課題の解決策について）